

南あわじ市 平成 23 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(団体用)

基本事項

		整理番号	655
事業名	農業研究グループ補助金	予算科目	会計 一般会計・1
担当部課名	農業振興部 農林振興課		款 農林水産業費・6款
電話	0799-43-5025		項 農業費・1項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	目 農業振興費・3目
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	職 食 づくり 夢あふれ 働く場を生み出すまちづくり	
	まちづくりの目標	ふやさんが 食づくりの担い手【農漁業】	
	施策目標	食づくりの源である豊穰の大地と海を守り、農業や漁業に携わる市民(若者、女性、元気な高齢者層など)を育てる	

Plan & Do (計画・事業内容、団体内容、投入資源)

団体の概要	団体の活動目的	(対象者をどのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 本協議会は、南あわじ市内農業研究グループに関する事項の連絡・調査・研究を行い、南あわじ市農業の振興と会員相互の啓発に努め、南あわじ市農業の発展に寄与することを目的とする。		
	団体の活動内容	(主な事業、具体的な活動内容等) 本協議会は、各農業研究グループの連絡調整に関する事、グループ活動の育成助長に関する事、農業指導者の養成研修に関する事、農業後継者の育成に関する事、消費者と農業生産者の相互交流に関する事、農業研究グループの活動の調査・研究に関する事の事業を行う。		
	団体の概要	(どのような人が団体の構成員となっているか、構成員の内訳等) 南あわじ市内の農業研究グループ17団体が協議会の構成員となっている。		
	事務局の所在 (直接事務執行部署)	<input type="checkbox"/> 補助団体	<input checked="" type="checkbox"/> 市役所	<input checked="" type="checkbox"/> 市単位 (農林振興課) <input type="checkbox"/> 旧町単位 () <input type="checkbox"/> 旧村単位 ()
	補助金算出根拠	現在、協議会には17団体が加入しており、各グループの活動に対して1グループあたり30,000円の補助金を支出している。 また、協議会全体の研修会等の活動費用の実績額に対して補助金を支出している。		
	補助交付期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度	<input checked="" type="checkbox"/> 設定なし	
	合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から		

		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
資源配分 (インプット)	直接事業費 (千円)	750	526	631	675	675
	農業研究グループ連絡協議会事業補助金	750	526	631	675	675
	事務局事務費(市が事務局の場合)					
	財 源 (千円)					
	国					
	県					
	起債					
	その他					
	一般財源[A]	750	526	631	675	675
	人件費(正規職員)[B](千円)	112	113	110	107	107
	平均人件費(1日当り)	27.9	28.2	27.4	26.8	26.8
	事業量1(事業に要した日数)	4	4	4	4	4
	事業量2(事業に要した人数)	1	1	1	1	1
	年間経費([A]+[B])	862	639	741	782	782
	「目的」対象人数1人当り経費 (円)	-	-	-	-	-
経費に関する 補足説明	平成22年度まで決算額。平成23～24年度は当初予算額。					

Check (事業の自己評価・一次評価)

費用対効果	(費用対効果の分析、問題点・課題などを記入。) 当協議会への補助金は、研修会・視察研修等の事業補助と構成員である各農業研究グループへの活動補助の2つに分かれる。研修会・視察研修は、各グループから40～50名程度の参加があり、事業自体の効果は高いと考えます。しかし、各グループへの活動助成金については、効果的に使用されているかの判断が難しい。				自己評価 (5点評価)
					3
必要性	公共性の高低	<input type="checkbox"/> 高	<input checked="" type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低	自己評価 (5点評価)
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 当協議会は、平成2年から活動し20年以上の歴史がある。発足当時は、様々な農業振興のための取組みを実施し、地域農業の発展に寄与した実績がある。しかし、近年は輸入野菜の増加、農産物の価格低下や農業用諸資材、燃料等の社会的要因や農業従事者の高齢化、後継者不足による農業の衰退が懸念されている。そういった中で、構成員である各農業研究グループの方々は、市の食まつりへの参加や市行事への積極的参加など意欲的な活動実施している。また、女性や若い人の会員も増えてきているので、後継者育成のためにも南あわじ市の農業にとって必要な団体であると考えます。				
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 近年では、発足当時のように積極的な活動は、少なくなったが、各研究グループの活動においては、経営能力向上や農業経営改善に積極的に取り組んでおり、地域での農業振興に必要な存在である。 現状は、各研究グループの活動が主となっているが、今後は協議会が主体となり各研究グループの育成に力を入れるよう推進したいと考えている。				<p style="text-align: center;">評価グラフ</p> <p style="text-align: center;">費用対効果 必要性</p>

Action & Plan (改善・改革の内容及び次年度以降の計画)

	平成24年度にできる改善・改革	平成25年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減
	<p>今後は、各グループへの補助金交付のあり方と協議会の役割を再認識する必要があるため、総会において、補助金の必要性や妥当性について協議を行い、補助金の使途を明確にするとともに、構成員からの自発的な提案による協議会活動の充実を図っていきたいと考えます。</p>	同左
(現状維持以外の改善方法)	<p>協議会において、各研究グループへの補助金の使途を明確にするため、実績報告書に補助対象経費の領収書等根拠資料の添付を義務づける。</p>	同左
改善によって期待される効果	<p>改善によって、不明確であった補助金の使途が明確になり、支出額の抑制につながるものと期待する。また、近年形式的であった協議会活動が構成員自身の提案や協力により、相互理解と連帯感が生まれることにより、新たな活動の基礎となり、地域の農業振興へ波及するよう期待する。</p>	同左
(現状維持の場合も記入)	<p>仮に補助金、交付金を廃止した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>補助金を廃止することによって、市の支出額削減は図られるが、協議会の存続は困難と思われる。現状では、南あわじ市農業をPRするイベント等での支援を受けており、各グループの活動において経営能力向上や農業経営改善に積極的に取り組んでおり、地域の農業振興に必要な団体であり、協議会解散による市及び地域における影響は大きいと考えられる。</p>	